

発信器を装着したイセエビ人工種苗の行動調査

～発信器による放流直後の詳細な行動調査を国内で初めて実施しました～

イセエビは沿岸漁業の重要な対象種であり、資源の増殖に用いる稚エビを人工的に生産するための研究が長年実施されてきました。その結果、試験放流に用いることが可能な稚エビを生産できる段階になり、人工生産した稚エビに発信器を装着した試験放流を、国内で初めて実施しました(京都大学フィールド科学教育研究センターとの共同研究です)。



県のさかな「イセエビ」



イセエビの幼生



稚エビ

発信器を装着したイセエビ



- 甲羅の部分に接着剤で発信器を装着し、潜水により中心の超音波受信機の近くに放流しました。

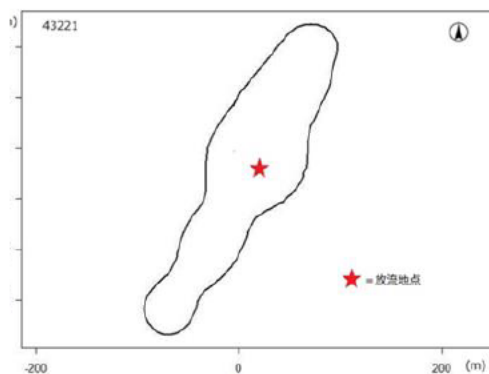
受信機の設置例



- 放流場所(魚礁)を中心にして、周囲約200m四方に複数の超音波受信機を設置しました。



稚エビの行動範囲例



- 放流したイセエビ人工種苗は、昼間は魚礁等に隠れ、夜間は行動する夜行性であることと、魚礁周辺に留まっていることが確認されました。

今後の課題

- 今後は、同じサイズの天然イセエビと人工イセエビに発信器を装着して放流することで、天然個体との行動に違いがあるかどうかを調べ、イセエビ人工種苗の行動特性を明らかにしていきます。



三重県水産研究所 沿岸資源増殖研究課

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒517-0404 志摩市浜島町浜島3564-3

TEL (0599)53-0016

FAX(0599)53-2225